

番号	123	浪切不動明王像		
所在地		白石町福富下分 1 8 6 4 龍神社		
災害別		大正 3 年（ 1 9 1 4 ）高潮		
目的別		伝 承	建立年	昭和 3 年 5 月
特記事項		一部判読困難		

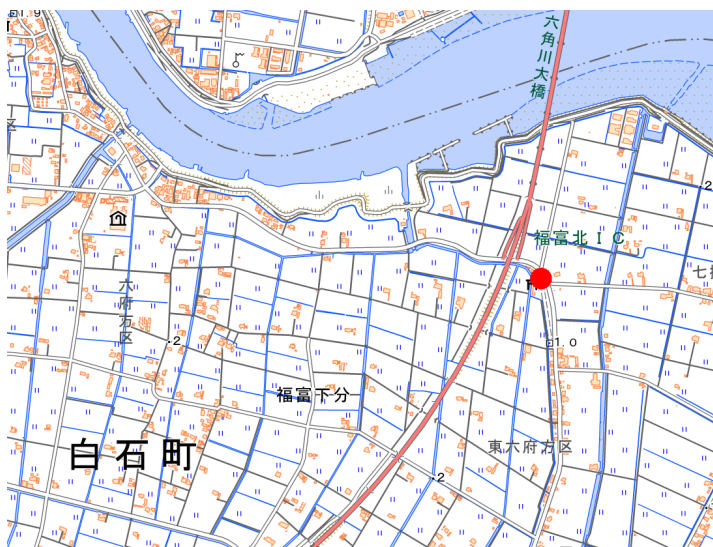


白石町福富の龍神社の東側に祀られている浪切不動明王の像。浪切不動明王像は修行大師の像とともに干拓地沿いにはよく見かける。弘法大師が唐から帰朝する際、海が荒れ遭難しかけたときに不動明王を刻んで祈ったところ海が収まり無事帰朝できたという故事から、地域の人々が海上安全と風水害防除を願って建立したものと思われる。

浪切不動明王像の光背に、大正 3 年（1 9 1 4）8 月 2 5 日の高潮のことが記されているので掲載する。

「昭和三年五月廿八日 □□は不知火の名所として知らる有明・・・潟に沿う清浄の地を求む 豫^{かね}て発心の同志諸氏の賛同^{あつま} 寛^{あつま}り庶民萬衆の平和と生命を保ち堤塘^{けんちよう}の 堅 疊と五穀豊饒を祈らせ賜ひ 夙^{つと}夜捨身以て御修行遊さる偉徳たる 赫々浪切不動明王並に修行大師の両尊佛を建立するに至る想ふに昔鍋島勝茂治茂両公^{つと}夙に干拓事業に貢献其功績大なりと謂ふ爾来數百年間々断なく起業^{さかん} 旺^{さかん}にして幾多の疾風雲を捲き天を襲ひ怒濤狂瀾と化し堤塘常に穩ならず就中近例に見に大正三年八月廿五日の慘膽たる海^{しやう} 瀟^{しやう}の如き年又起こる災害

^{あに} 豈に幾何そや人心 ^{きんうきょう} 惘々たり然るに況んや此の難工苦業遂に今や成り美田良圃の錦を飾り
 得大衆始めて安堵の喜色に漂 ^{さら} す是れ寧 ^{なん} そ上諸先輩の賜と広く世人の後援と相 ^{たのむ} 恃と雖も而
 も高野山の分靈茲に居ましまし ^{ひと} 單り有明の波静けさ耳ならんや法薬以て平和の時来りぬ
^{ああ} 噫有難や千歳の末も永久鎮座ましまし其の慶福を祈らせ賜ひそれ尊佛の聖恩に奉仕すると
 き感激亦以て鑑となし広く世人の礼拝すべく建立せし所以なり 敬白 玉龍撰」(原文は
 カタカナ表記)



国土地理院電子国土 Web



龍神社